

おさかな瓦版

No. 120

2024.7



ヒラメ



ふーちゃんのトピックス

あた 新 しい 1 万 円 札 「 渋 沢 栄 一 」 の 孫、
「 敬 三 」 は 釣 り 好 き ! ?



ヒラメ

～海底でじっとしているばかりじゃない!?～



2 ヒラメの胃の中から出てきた多数のカタクチイワシ

ヒラメはどんな魚?

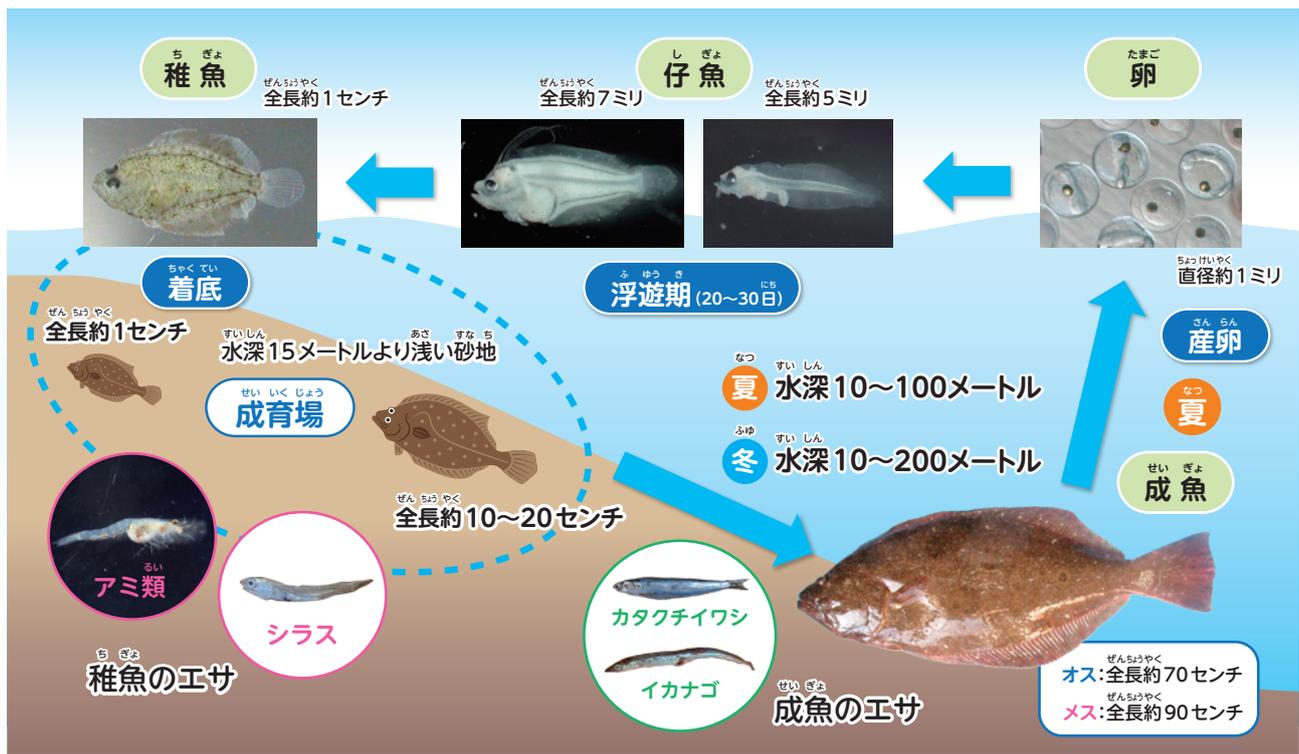
日本沿岸の水深20メートルよりも浅い場所にすんでいます(1)。成長がはやく大きさ(全長)はメスで90センチ、10キロ、オスで70センチ、4キロぐらいまで成長します。寿命は10歳程度です。全長10～20センチくらい(稚魚)までは水深15メートルより浅い砂地にすみ、主にアミ類(甲殻類)やシラスなどを食べています。それより大きくなると深い方に移動し、主にカタクチイワシやイカナゴなどの小魚を食べます(2)。養殖や栽培漁業※も盛んにおこなわれています。

※栽培漁業：卵から稚魚になるまで水槽で育てて放流し、成長したものをとる漁業です。

ヒラメというと海底でじっとしている姿を思い浮かべると思いますが、泳いでいる時間も結構あります。

漂いながら姿を変える

卵は2日程度でふ化します。その後、仔魚は20～30日間浮遊しています。体は左右対称で、目は両側についています。水中を漂ううちに体の形が変化(変態)し、2つの目は体の片側に並びます(おなかを手前にするとうちの右目が左側の頭部に寄っています)。そして、全長1センチぐらいの稚魚になると沿岸の水深10メートルより浅い砂地に着底し、海底での生活を始めます。



ときどき遊泳

成魚も季節によって、意外と水中を泳いでいます。例えば、全長50~67センチの9尾のヒラメについて冬の東シナ海で調べたところ、遊泳している時間は1日平均3時間ほどで、最長では1日の半分以上泳いでいました。1回の遊泳時間は平均1~2分間ですが、最長は約2時間でした(🐟**チェック**)。泳ぐ理由は、産卵場への移動や、エサを探したり食べたりするためと考えられています。

産卵

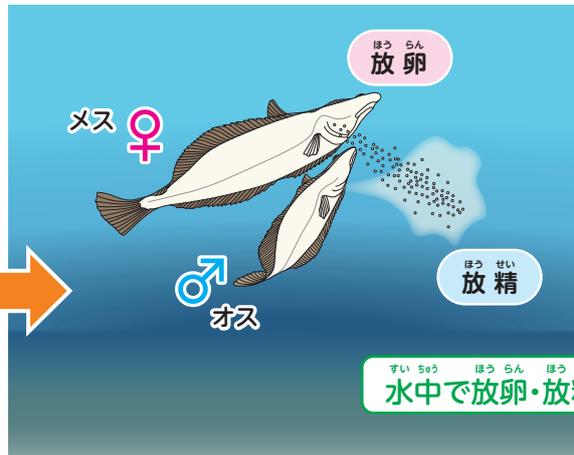
産卵するときは海底から数メートル上昇し、水中で

行われます(🐟3)。メスは3歳ぐらいから産卵し、1尾が産卵する期間は2か月くらいです。水槽内では、毎日産卵します。全長60センチのメスが1回の産卵期に産む卵の数は約1,000万粒です。

ヒラメは日本周辺に広く分布し、生息場所によって環境もさまざま、産卵期や稚魚のエサが豊富な時期も海域により異なります。例えば九州では1~2月が産卵期ですが、東北では6~8月です。ヒラメの生態とその地域による違いをよく知ること、魚を守りながら漁を続けることに役立てていきたいと考えています。

文：栗田 豊

ペアで上昇遊泳(♂+♀)



3 オスとメスのペアで海底から数メートル上昇し、産卵します。(水槽内で観察された産卵行動をイラスト化)



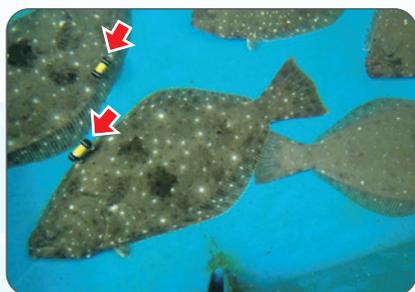
チェック

水深・水温などを測るセンサーとデータを記録するメモリー、電池が一体となった小型の測器を魚に取り付けて、行動を記録する技術をバイオリギング

バイオリギングによる行動研究

といいます(FRANEWS 57参照)。大型のヒラメに取り付けて調べた結果、すんでいる場所の水温、水深、産卵行動などが分かりました。

ヒラメがどこでどんなふうに暮らしているかが分かったよ



ヒラメに取り付けた記録計(←)



記録計



バックナンバーを読むには

[FRANEWS]

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/book/franeWS.html>





ふーちゃんのトピックス



新しい1万円札「渋沢栄一」の孫、 「敬三」は釣り好き!?

今年7月にお札が新しくなりました。このうち、1万円札に採用されたのが「渋沢栄一」。日本初の銀行を開業した人です。今回はその孫「渋沢敬三」(1896年～1963年)についてです。敬三は子どものころから生き物や人々が使う道具に関心があり、これらを集めて、自宅の物置小屋の屋根裏に小さな博物館を作ってしまうほどでした。大人になってから集めた本や古文書は「**祭魚洞文庫**」といって、その一部が水産研究・教育機構の図書資料館にあります。その中の1冊、『何羨録』は現存する日本で一番古い釣りの専門書といわれています。敬三自身も大人になってから釣りを覚え、水産研究・教育機構の図書館がある横浜にも釣りにきていたそうです。

『何羨録』については「**おさかな瓦版 No.10**」にくわしく掲載しています。

さいぎょうどうぶんこ 祭魚洞文庫



さかなつくし

うたがわひろしげ えが
歌川広重が描いた
ぎょえいが いしえ
魚類画の錦絵シリーズ

かせんろく 何羨録

えどじだい きやうほう ねん むつにくにくろいしほんさんだいほんしゆ
江戸時代の享保8(1723)年、陸奥国黒石藩三代藩主
つがるぬめ さく うねめ えどわん
津軽采女の作。采女が江戸湾でのキス釣りなど遊びの
つりについて記したもの。江戸湾でのキス釣り場、釣具や
工サ、釣期や気象について記しています。



かわらばん おさかな瓦版 No.10



ねん
2006年
がつかんこう
4月刊行

バックナンバーを読むには

「おさかな瓦版」

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/book/kawaraban.html>



ふーちゃん と



ふっくん：あんじい仙人のもとで修行している研究員です

おさかな瓦版 No.120 (2024年7月発行)

編集・発行：国立研究開発法人 水産研究・教育機構

質問の送り先・お問い合わせ先：広報課

〒221-8529 横浜市神奈川区新浦島町一丁目1番地25

テクノウェイブ100 6階

TEL.045-277-0136 (広報課) FAX.045-277-0015

ウェブサイト <https://www.fra.go.jp/>

Facebook X (旧Twitter) YouTube



Facebook <https://www.facebook.com/fra.go.jp>

X (旧Twitter) https://twitter.com/fra_go_jp

YouTube <https://www.youtube.com/@frachannel>

ぶらっとらぼ

YouTube チャンネル!

ぶらっとらぼ <https://www.youtube.com/@fralabo>

見てね!

ひょうし しゃしん 表紙の写真



ひら がだ たくちよう
平たい体の特徴のヒラメ

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。